

平成 26 年度第 8 回（136 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 27 年 2 月 18 日午後 2 時から

場 所：生涯学習センター講座室 1

出席者：菊谷隆、大津里美、吉岡袈裟喜、鬼澤義信、法性由紀枝、川原寿春、
渡辺正宏、内田貞司、山下文夫、今間洋一、柴田正子、山本強、大槻義顯、
林光夫、芹澤正男

事務局：市民協働係長、主任

欠席者：長谷部勝也、竹森菜摘、車崎祥子、小寺茂、白井航也

<配布資料>

- 1 平成 26 年度第 7 回（第 135 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 提案「太陽光エネルギーの活用 外灯のソーラー化」回答
- 3 提案「外気舎記念館の周辺を公園として整備を、また公開を」委員長資料
- 4 提案「駅・西友側への階段 1/2 スロープ化へ」
- 5 提案「木にネームプレートを」
- 6 提案「ソーラー都市」
- 7 提案「病院のまち清瀬の結核療養の歴史展の開催を！」

1 開会

2 前回の確認

委員長：前回の議事要旨の確認をしてもらいたい。

委 員：訂正無し。

<委員了承>

3 提案審議

委員長：提案「太陽光エネルギーの活用 外灯のソーラー化」の回答について確認してもらいたい。副委員長が清瀬にある幼稚園の太陽光発電について実例を調べてきてもらった。また太陽光発電の関連について新しい提案が来ているので、その際に実例を示したい。事務局と児童センターの太陽

発電外灯を見学しに行った。費用対効果の検証も前提に回答したい。

委員：回答で「LED電球を交換する」を「LED使用の電球及び設備の交換」と修正した方がよい。

委員長：その内容を織り込んで回答する。外気舎の件で事務局と実際に見学してきた。その中で委員長の報告としてお伝えしたい。まず東京病院は私有地であるため、市民へは周知啓蒙する。そして市として指定文化財に認定した外気舎の保存方法を今一度検証し、場所の移設もふまえて清瀬市の歴史ある指定文化財のあり方を例えばその方面での有識者による検討することも必要と感じた。よって今回の提案である公園化は私有地のため難しいと思う。今回示した内容について委員の意見を頂きたい。

委員：委員としては賛成であり、この東京病院への働きかけを市役所のどこの部署であるかを回答に織り交ぜてもよいと思う。

委員：市として、何か働きかけることはあるのか。

委員長：現在、外気舎の修復の方向である。と回答に盛り込みたい。

委員：場所の移設や私有地の文言は回答から取っても良いと思う。

委員長：東京病院の敷地は患者の療養のためである。外気舎の数も現在一つしかない。これまで東京病院とやり取りした情報について、事務局と相談の上、回答したい。次に提案「駅・西友側への階段1/2スロープ化へ」について読み上げたい。

【提案内容】

・提案の題名

駅・西友側への階段1/2スロープ化へ

・提案内容

エレベーターを使うときM2（中二階）へ止ることがあります。

止る時や動き出す時はとてもゆっくりですので皆で「ヤレヤレ」とか「どうして」と口に出される方もいる程です。

ご利用者は高齢者・押し車・車椅子の方が多いのですが、すぐ横にある数段の階段を半分スロープ化することでM2利用者は大半なくなるはずで。“安全の為にゆっくりした”とかききますが半分スロープ化はエレベーターの中では大賛成、どこに言えば…とかの声もきかれます。幼児を連れた方々も手をつないでゆっくり歩けるスロープが良いと思います。

委員：スロープとあるが、半分のスロープでは角度が急で車いすの方が登れないため、スロープを作るのであれば長く距離を取る必要がある。

委員：階段をなくす事にすると勾配がきつくなってしまうので、階段を作った。

委員：バリアフリーのために、中二階を作った。障害者への配慮のための中二階なので提案者にはそのことを理解してもらうよう回答するべきである。

委員：この案件についてはバリアフリーを考えた上での中二階であるので皆さんの配慮が必要である。

委員長：回答を前提としたい。次に提案「木にネームプレートを」について読み

上げたい。

【提案内容】

・提案の題名

木にネームプレートを

・提案内容

清瀬駅北口のバス停2番の近くに一本の木があります。名前を何人かの人にたずねましたが解答が得られません。信愛バス、きよバス等の発着所の近くにありま
すので一本の？の木の所に来るバスですと説明に使いたいです。「待ち合わせ」
のシンボルにもなります。是非とも大きなネームプレートを！

委 員：この提案はどの木かわからない。

委 員：北口のバス停の間ではないか。

委 員：全部ではないが、プレートはついている。

委 員：公園の中の銘木には名前をつけたりするが、基本街路樹にはつかない。

委員長：プレートをつける市の基準を織り込んで回答としたい。次に提案「ソー
ラー都市清瀬」について読み上げる。

【提案内容】

・提案の題名

ソーラー都市清瀬

・提案内容

清瀬市は、三多摩地区の中で高齢化率が一番高く、また、生活保護受給率も一番
高いと聞いております。この傾向は今後も続くものとおもわれ、一市民としては
市としての健全運営が出来るのか、先行き不安に感じています。

市の予算編成は、収入が見込めて初めて予算が組めるのであり、収入がなければ
市民は我慢をしいられることになると思います。自然豊かな清瀬で一生過ごそう
と考えている方が多いと思いますが、やはり健全市政を継続するには、収入を多
くする策を考えなければならないのでしょうか。そこで収入を上げるための提案をし
たいと思います。

清瀬は、自然に恵まれ日当たりもよく日照時間も長いと思われます。この自然環
境を利用して、エコ環境都市の先駆けとして、「ソーラー企業」の誘致を図り、「ソ
ーラー都市清瀬」として知名度をあげると共に、企業からの事業税や、ここに働
く社員に清瀬の住民になっていただき住民税の納入などで収入のアップに繋げら
れればと思います。ぜひ、収入増策としての検討をお願いします。

委 員：ソーラー発電企業に誘致とあるが、清瀬に企業誘致出来るような場所
はない。

委 員：岡山県は県をあげて、ソーラー発電企業に力を入れている。

委 員：また発電の企業買い取り制限がかかっているのも難しいと思う。

- 委員：企業が増えて法人税増収に加え、市内にも雇用が生まれるのも良い。
- 委員：企業誘致は企業側にもメリットがないと難しい。
- 委員：清瀬の南側は崖地が無いので、ソーラー発電企業の好立地として清瀬市はどうかと思う。仮に行うのであれば公共施設の屋上等になってくると思う。
- 委員：大和田通信基地があるが、あの土地は米国のものなので、市では使うことが出来ない。
- 委員長：参考に清瀬のある幼稚園の太陽光の実績報告の資料がある。余剰電気が13,430キロワットで、537,000円分売電している。減価償却を踏まえると悪くない発電量である。ソーラー都市清瀬として検討していくことは良いことと思う。
- 委員：ソーラーパネルを既存の建造物に作ると荷重の問題から耐久性が心配である。
- 委員長：新庁舎でもソーラー発電を取り入れると計画しているので、どのように新庁舎に組み込んでいくのか調べてみる。次に提案「病院のまち清瀬の結核療養の歴史展の開催を！」について読み上げる。

【提案内容】

・提案の題名

病院のまち清瀬の結核療養の歴史展の開催を！

・提案内容

清瀬市の今日の「病院のまち」の出発点となった清瀬と結核療養所の歴史をもっと正しく知りたいと思います。

清瀬市の広報「きよせ」などを見ていると公益財団法人結核予防会結核研究所には、病巣の標本なども保存され、結核撲滅のポスターとか、結核の治療・療養に関する貴重な国内外の図書・研究資料が沢山保存されているようです。

最近開催されている石田浪郷展では、療養中の俳句集、歴史的な清瀬結核療養所の写真なども何枚か展示されていました。

作家の結核患者はたくさんおり、吉行淳之介は療養中に『驟雨(しゅうう)』で第31回芥川賞を受賞、結城昌次も療養しています。

この40数年に及んだ結核療養に関する資料—当時の新聞記事や清瀬の風景、あるいは結核に関する映像ニュースなど、関係者のビデオメッセージとか—など関係資料の調査・収集もこの機会にできれば幸いです。デボラ、テング熱などのこれから増加するとみられる感染症の予防、撲滅にもつながっていくと思います。ついでに、公開できる療養資料、ポスター、標本、患者の記録、写真など結核療養時代の全貌を一般の人が関心を持てるよう、世界的に流行した「結核」であれば、ヨーロッパ、アジアなどの結核状況・データにもふれた展示会を開催してみてもどうでしょうか。

この世界一といわれた清瀬の「結核療養システムの歴史を明日へ」の初の公開展示（+元結核患者、医師などの講演）ができるとよいと思います。

市民や活動団体との協働の実行委員会形式などで開催案や展示会の内容構成もできると市民自ら結核の歴史や研究の成果を伝えていくことも可能と考えます。結核予防会の貴重な資料などが中心となりますので、予防会の展示室での開催や清瀬市/結核予防会の共催などが考えられそうです。

また、さらに研究調査を続け、郷土博物館などでの展示へと発展できれば。

公益財団法人結核予防会結核研究所は、昭和14年に内閣総理大臣に賜った皇后陛下（皇淳皇后）の令旨を奉戴し、内閣決定により設立された公益法人です。総裁秋篠宮紀子殿下のもと、結核を中心に、肺がん、その他の呼吸器疾患の予防事業、調査研究および国際協力等を行っている。

委員：昨年結核研究所を見学した際に、展示会を行いたいと思い、今回提案した。

委員長：結核研究所には様々な貴重な研究資料、標本がある。

委員：市史編さんにも歴史について関連があるので確認したい。

委員：社事大で研究グループがあれば協力していく方向もある。50年の節目に記念展や展示会を開催することの専門委員会を設置することや、市民公募の委員会を創ったりすることを提案できれば進んでいくかと思う。

委員：展示会としては良いが、借りられるかの有無や、実行委員が企画運営していくか等を考える必要がある。

委員：市内の色々な会場で行い、清瀬市を知りながら清瀬市全域で開催することも良いと思う。

委員：行うのであれば準備委員会等を立ち上げる必要がある。

委員長：次回も引き続き審議する。

次回3月18日、14時より生涯学習センター講座室1で行なう